

これからはじめる防災対策・6
～首都直下地震に備える～

●首都直下地震とは

「首都直下地震」とは、首都圏の広い範囲内に起きる、マグニチュード7以上の大規模の地震になると予想される地震の総称です。今後30年間に約70%の確率で発生すると考えられています。

首都直下地震の最悪のシナリオでは、犠牲者数が2万3000人、建物の被害61万棟が全壊・焼失、避難者数は720万人といわれています。

●過密さが災害リスク高める

避難者数だけみると、阪神淡路大震災では30万人、東日本大震災では38万人でしたから、ケタが違います。人口の過密さがリスクを高めているといえます。ですので、首都圏に暮らす皆さんは事前に備えることが重要なのです。

避難所が足りないため、避難所に入れないという事態が生じます。家の耐震化を図り、避難所へ避難しなくてもいいようにすることが重要です。また、物流が止まって物資の輸送が滞るため、飲料水・食料も不足します。家庭内備蓄を1週間分以上確保することが推奨されています。

●首都直下地震の火災対策

首都直下地震対策として重要なことは、家を「倒壊させない」こと、そして「焼失させない」ことです。

建物被害予測61万棟のうち、とくに、木造の家が密集している地域での出火対策が非常に重要です。阪神・淡路大震災では、原因が特定された火災の6割が通電火災でした。東日本大震災でも、5割強が電気関係の火災でした。

通電火災とは、地震で止まった電気が復旧した際、倒れたり破損した家電やケーブルに通電することで発生します。

対策はブレーカーを落として避難することが基本ですが、地震発生時に一定の揺れを感知したときに、電気を自動的に止める「感震ブレーカー」を設置するのが効果的です。

簡易タイプのものは2～4千円程度で設置できます。いますぐできる防災対策のひとつです。